

TEISEN REPORT

第94期事業報告書

自 2019年 1 月 1 日

至 2019年12月31日

帝国纖維株式会社

ご挨拶

株主の皆様には、平素から格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、当社第94期（2019年1月1日から2019年12月31日まで）の事業報告書をお届けするにあたり一言ご挨拶申し上げます。

当社グループは、2017年度からスタートした第四次中期経営計画「^{テイセン}帝国繊維2019」に於いて、

《 災害の多発化・激甚化に備え

先進的防災事業を確立

社会や事業の安心・安全に貢献する！》

を目標に掲げ、グループ一丸となって取り組んでまいりました。

この間、原子力発電所に加え、コンビニートなど基幹産業向け民需防災市場が拡大、さらに空港を中心とするセキュリティビジネスにも確固たる営業基盤を築くことが出来ました。その結果、「官需防災」に加え「民需防災」も着実に発展しています。また、基盤事業である消防ホース・防災車輛・資機材・防火衣等特殊被服の4事業分野におきましても、新たな商材開発などを進め、ゆるぎない市場地位を確保しつつあります。当社の事業基盤は「総合防災企業」として、一層強固なものになっております。

これもひとえに株主の皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げる次第です。

配当につきましては、収益に応じた配当を基本としつつ、企業体質の一層の強化ならびに将来の事業展開に備えるための内部留保の充実を併せて図ることを基本方針としております。



代表取締役社長
白岩 強

経営理念

当社グループは創業時から受け継がれた「社会の安全、生活文化の向上に貢献する企業」を基本理念とし、戦前は製麻事業を中心に広く国家的貢献を果たし、また、近時は総合防災事業とリネン事業という2つの価値ある事業を通じて、1世紀以上に亘り、社会・国民の安心・安全と良質な生活文化の向上に貢献してまいりました。

当社グループは、これらの事業活動を通じて、「一味ちがった優れた企業」「発展し成長を続ける企業」「社会や公共に大きく貢献する企業」の実現を目指しております。

第94期の期末配当につきましては、第四次中期経営計画「^{テイケン}帝国繊維2019」が、成功裡に完遂できたことを踏まえ、1株につき5円の特別配当を実施し、1株当たり45円（うち、普通配当40円、特別配当5円）とさせていただきます。

今期より、第五次中期経営計画「^{テイケン}帝国繊維2022」がスタートしました。

先進的防災事業の確立・発展を通じ、社会的使命と責任を果たすとともに、企業価値の向上に取り組んでまいり所存です。

当期の概況および次期の見通しについてお聞かせください。

当連結会計年度におけるわが国経済は、堅調な企業収益を背景に雇用環境の改善が続くなど景気は緩やかな回復基調を維持しました。しかしながら、長期化する米中貿易摩擦や中東情勢の影響などにより、世界経済は一段と減速感を高めております。

防災事業の分野では、2018年の西日本豪雨、台風21号につづき、2019年においても台風15号、台風19号は東日本の広範な地域に甚大な風水害被害をもたらしました。相次ぐ記録的な豪雨や暴風は、河川の氾濫、土砂災害及び長期に亘る大規模停電などにより、国民生活、企業活動に大きな混乱を生じさせています。さらには、各地で局所的な地震が頻発しており、首都直下地震、南海トラフ地震による脅威もますます高まっています。また、世界各地でテロが発生する中、多くの人命が奪われ、テロをはじめとする特殊災害のリスクが世界的な拡がりを見せるなど、東京オリンピック・パラリンピックを控え、災害に対する官民挙げての防災体制の確立がますます重要となっております。

繊維事業の分野では、リネン（麻）につきましては、麻素材が市場に定着し、天然繊維としての良さが再評価されていることもあり、順調に売上を伸ばしつつあります。また、耐熱、耐切削、高強力など優れた機能の特徴とする高機能繊維につきましては、防護服分野を中心に新規商材の開発が進展しつつあります。

その結果、当連結会計年度の売上高は353億9千3百万円（前期比19.3%増）、営業利益は56億1千2百万円（同25.4%増）、経常利益は61億9千6百万円（同24.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は42億5千7百万円（同25.1%増）となりました。

次期の連結業績につきましては、連結売上高320億円、営業利益37億円、経常利益42億円、親会社株主に帰属する当期純利益29億円を見込んでおります。

何卒株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2020年3月

中期経営計画「^{テイ}帝国^モ繊維^{セン}2022」について

今年度（2020年度）からスタートする第五次中期経営計画「^{テイ}帝国^{セン}繊維2022」では、

《先進的防災事業を確立・発展させ
多発化・激甚化する自然災害・気候変動による脅威から
社会や事業の安心・安全を守る！》

を目標に、以下のテーマを推進してまいります。

1. 大量送排水システムによる新たな市場開拓
基幹産業のBCP対策、国土交通省・自治体による水害対策への貢献
2. セキュリティビジネスの新たなフロンティアを切り拓く
セキュリティビジネスにおける商材開発強化と空港を足掛かりとする市場拡大
3. 防災特殊車輛ビジネスの確立
革新的な防災特殊車輛により、消防防災・産業防災の装備刷新・充実に貢献する
4. 当社事業の基盤である足元の事業を固め、一層磨き上げる
消防ホース・防災車輛・資機材・防火衣等特殊被服の4事業分野で確固たる業界No.1の地位を確保する
5. 消防ホース・防災車輛生産体制の刷新
6. 収益力の持続的強化を目指す

大量送排水システムによる新たな市場開拓

近年、スーパー台風や記録的な大雨により、甚大な水害被害が日本各地で発生しています。洪水や高潮などによる被害の最小化は、国・地方自治体・企業が取組むべき共通の課題となっています。大量送排水システム（ハイドロサブシステム）による新たな市場を開拓し、水害対策に貢献してまいります。優れた商材と強力な営業力（体制）で、市場席捲を目指します。

セキュリティビジネスの新たなフロンティアを切り拓く

爆物検知器やボディスキャナーなどにより、空港向けセキュリティビジネスは大きく発展いたしました。テロは世界的な広がりを見せており、訪日外国人旅行者も大きく増加しています。セキュリティ商材の開発を強化し、空港を足掛かりとして、その先にある膨大なポテンシャルを秘めたセキュリティビジネスの新たなフロンティアを切り拓いてまいります。

防災特殊車両ビジネスの確立

多発化・激甚化する災害に備えるための消防・企業の防災対応力強化に対し、水利確保・水害対策用車両や救助工作車を中心とした革新的な防災特殊車両の開発・拡販をもって、消防防災・産業防災の装備刷新・充実に貢献してまいります。

当社事業の基盤である足元の事業を固め、一層磨き上げる

消防防災を対象とする消防ホース・防災車両・資機材・防火衣等特殊被服は、当社防災事業の根幹をなす事業基盤です。技術を磨き、新たな商材を投入し、業界No.1の地位を確固たるものにすることを目指します。市町村消防の広域化、緊急消防援助隊の増設と機動力の強化など、消防防災の役割拡大・機能強化に貢献することを目指してまいります。

消防ホース・防災車両生産体制の刷新

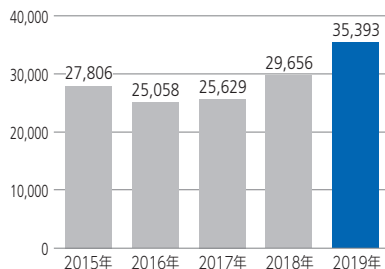
消防ホース・防災車両の生産にかかわる人材・設備・生産技術に磨きをかけ、商品開発力向上・品質改善・コスト低減を進めてまいります。事業の発展を支える生産体制の刷新・高度化が緊急の課題であり、これを推進してまいります。

当社グループは、防災事業の社会的使命と責任をしっかりと受け止め、創業以来の社是である「社会の安全と生活文化の向上」への貢献を通じて、その負託に応えてまいります。

連結財務ハイライト／セグメント別の概況

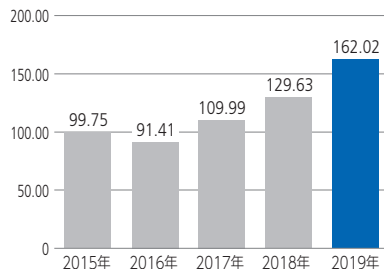
売上高

(単位：百万円)



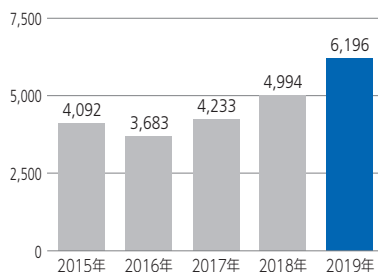
1株当たり当期純利益

(単位：円)



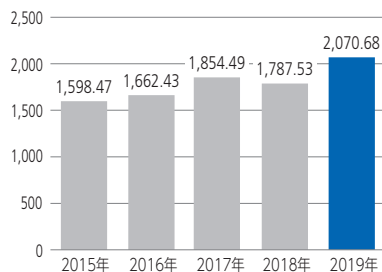
経常利益

(単位：百万円)



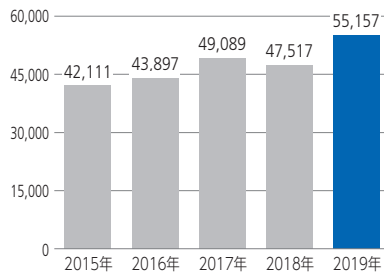
1株当たり純資産

(単位：円)

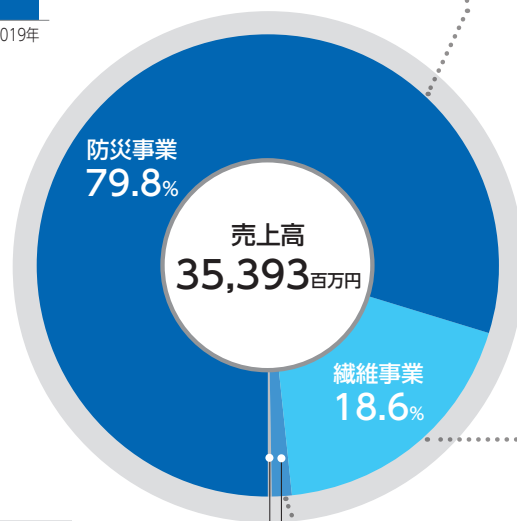


純資産

(単位：百万円)



セグメント別売上構成比



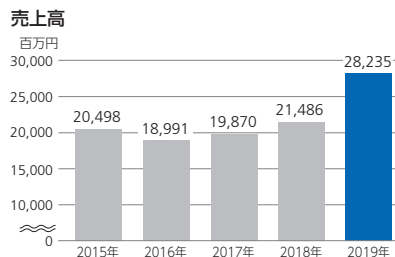
売上高
35,393百万円

不動産賃貸事業
1.5%

その他
35百万円 0.1%

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

防災事業 ● 売上高 / 28,235百万円



防災事業の分野では、原子力発電所やコンビナートなど大手民間企業向け大型防災資機材や空港向けセキュリティ機材のマーケットが順調に拡大し業績に貢献している他、救助工作車、空港化学消防車の拡販も堅調に推移し、売上高で282億3千5百万円と前期に比べ67億4千9百万円増加しました。

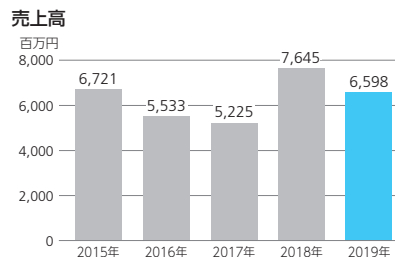


遠距離大量送排水システム

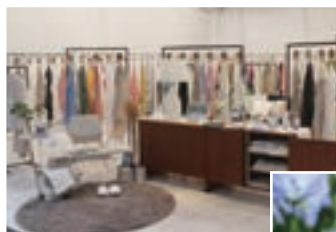


空港用化学消防車HRET

繊維事業 ● 売上高 / 6,598百万円



繊維事業では、官公庁向け繊維資材の売上が減少した結果、売上高で65億9千8百万円と前期に比べ10億4千7百万円減少しました。

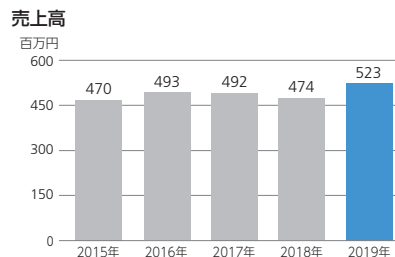


麻素材展示会



亜麻 (リネンの花)

不動産賃貸事業 ● 売上高 / 523百万円



不動産賃貸事業は堅調に推移しており、売上高で5億2千3百万円となりました。



鹿沼ショッピングセンター



イオンタウン大垣

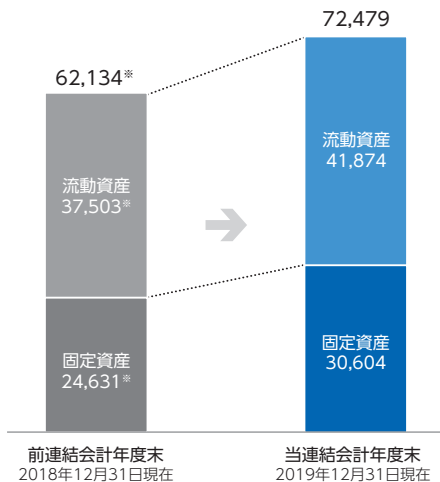
(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結財務諸表

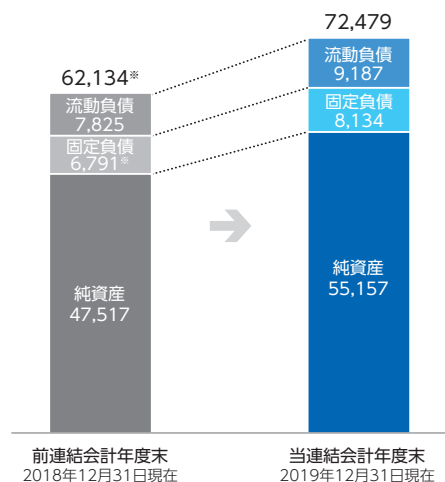
連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

資産の部



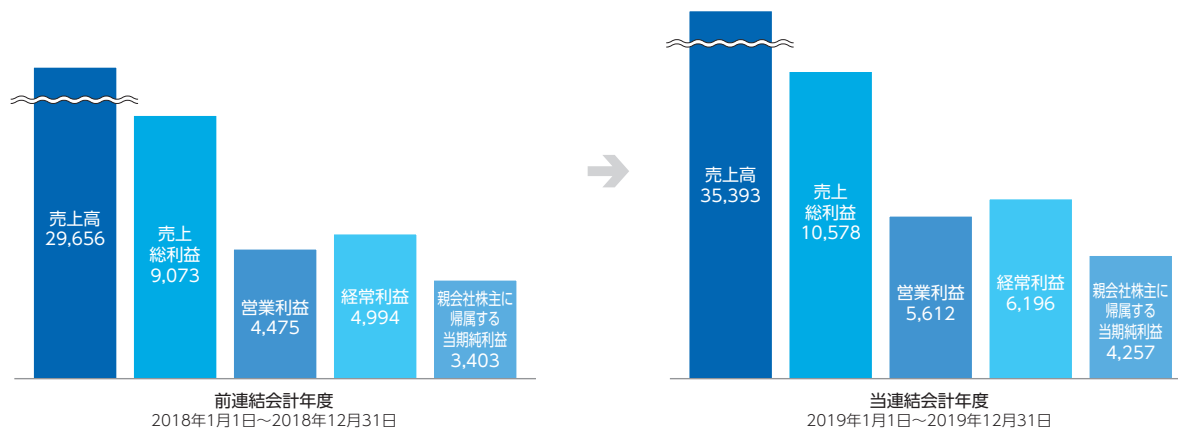
負債・純資産の部



※税効果会計に係る会計基準の一部改正に伴い、前年度末の金額は改正後の区分に従って表示しています。

連結損益計算書 (要旨)

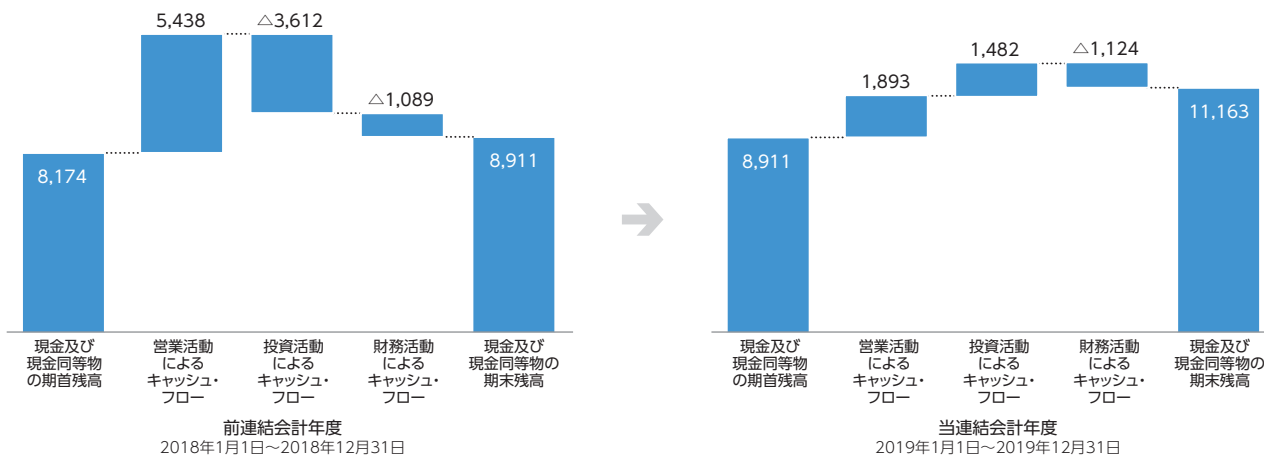
(単位：百万円)



(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)



財務のポイント

○資産

当連結会計年度末の財政状態は、前連結会計年度末と比べて、総資産が103億4千5百万円増加し、724億7千9百万円となりました。

これは主として、売上債権の増加や保有上場株式の含み益の増加などによるものです。

○負債

負債は、仕入債務の増加、未払法人税等の増加や繰延税金負債の増加などがあり、前連結会計年度末と比べて27億5百万円増加し、173億2千1百万円となりました。

○純資産

純資産は、利益剰余金の増加(32億6百万円)や保有上場株式の含み益の増加(41億5千5百万円)などがあり、前連結会計年度末と比べて76億4千万円増加し、551億5

千7百万円となりました。この結果、自己資本比率は75.1%となりました。

○営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の収入は、税金等調整前当期純利益を計上した一方で、売上債権の増加などにより、前期比35億4千5百万円減少し、18億9千3百万円となりました。

○投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金の収入は、譲渡性預金での運用などにより、14億8千2百万円(前連結会計年度は36億1千2百万円の資金の支出)となりました。

○財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の支出は、前期比3千5百万円増加し、11億2千4百万円となりました。

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

会社概要 (2019年12月31日現在)

- 商号 帝国繊維株式会社 (TEIKOKU SEN-I Co.,Ltd.)
- 設立年月日 1950年(昭和25年)7月1日/
創立 1907年(明治40年)7月26日
- 資本金 1,444,090,000円
- 従業員数 150人(連結ベース324人)
- 代表者 代表取締役会長 飯田 時章
- 主要な営業所および工場 本 社/東京都中央区日本橋二丁目5番1号
(日本橋高島屋三井ビルディング15階)
鹿沼工場/栃木県鹿沼市府所本町197番地

- 取締役
および監査役
- | | |
|---------|-------|
| 代表取締役会長 | 飯田 時章 |
| 代表取締役社長 | 白岩 強 |
| 取締役副社長 | 香山 学 |
| 常務取締役 | 榎谷 徹 |
| 常務取締役 | 小田原芳樹 |
| 常務取締役 | 岡村 建 |
| 取締役 | 片野 恭秀 |
| 取締役 | 中尾 徹 |
| 取締役 | 高木 裕康 |
| 取締役 | 深澤 正宏 |
| 監査役 | 横山 良二 |
| 監査役 | 小林 元 |
| 監査役 | 松居 隆 |

○グループ企業の概要

会社名	資本金(百万円)	議決権比率(%)	主要な事業内容
帝商株式会社	85	100	消防ホース・防災機器・防災車輛の販売、設計 設備工事ならびに繊維製品の製造販売
キンパイ商事株式会社	50	100	消防ホース・防災機器・防災車輛の販売、設計 設備工事ならびに繊維製品の製造販売
テイセン産業株式会社	123	100	重布、布帛、繊維製品の縫製加工販売、 保険代理業
株式会社テイセンテクノ	30	100	防災車輛・機器の製造、保守

株式情報 (2019年12月31日現在)

- 発行可能株式総数 97,600,000株
- 発行済株式総数 27,218,400株
(自己株式943,425株を含む)
- 株主数 15,697名
- 主な株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	1,587	6.03
株式会社みずほ銀行	1,295	4.93
明治安田生命保険相互会社	1,290	4.90
丸紅株式会社	1,200	4.56
ヒューリック株式会社	936	3.56
プリティッシュ エンパイア トラスト ピーエルシー	826	3.14
西松建設株式会社	800	3.04
株式会社モリタホールディングス	790	3.00
みずほ信託銀行株式会社	598	2.27
ビービーエイチ ファイデリティ ピューリタン ファイデリティ シリーズ イントリンシツク オポチュニティズ フアンド	550	2.09

(注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。
2. 持株比率は自己株式(943,425株)を控除して計算しています。

株主メモ

- 決算期 12月31日
- 定時株主総会 3月下旬
- 同総会基準日 12月31日
 その他必要ある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告いたします。
- 中間配当確定日 中間配当を実施するときは、6月30日
- 単元株式数 100株

- 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

- 郵便物送付先
 電話お問い合わせ先
 各種手続お取扱店

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続 お取扱店 (住所変更、 株主配当金 受取り方法の 変更等)		みずほ証券株式会社 本店および全国各支店 プラネットアース (株式会社みずほ銀行内の店舗) でもお取扱いいたします。
		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 ^(※) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承 ください。
未払配当金 のお支払	みずほ信託銀行株式会社 ^(※) および株式会社みずほ銀行の本店および全国支店 (みずほ証券株式会社では取次のみとなります) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

- 公告方法 電子公告の方法により行います。
 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
 公告を掲載する当社ホームページ
<http://www.teisen.co.jp/>

株主優待制度のご案内

- 対象となる株主様 毎年12月31日現在の株主名簿に記録された100株（1単元）以上保有されている株主様
- 優待内容 QUOカード1,000円分と3,000円相当の自社（リネン）製品
- 実施時期 毎年3月下旬の発送を予定しております。

テイセン

帝国繊維株式会社

東京都中央区日本橋二丁目5番1号 (日本橋高島屋三井ビルディング15階)
TEL (03)3281-3022 FAX (03)3275-2162

